

公益社団法人日本技術士会の男女共同参画の取り組み紹介

ダイバーシティ推進特別委員会 清崎淳子
公益社団法人日本技術士会・理事(2018.6~2021.6)

1. はじめに

ダイバーシティ推進特別委員会では、活動の一環として他組織の活動の情報を収集・整理し、本学会で取り組む活動に生かすとともに、他組織との連携を進めています。今回、他学協会の活動状況を参考に目的で公益社団法人日本技術士会の取り組みを紹介することになりました。国家資格「技術士」は21の部門からなり、応用理学部門、建設部門、環境部門など本会会員の方々にも縁の深い部門がいくつもあります。2021年に日本技術士会は設立70周年を迎えますが、「男女共同参画推進委員会」は2011年5月から活動を始めており、今年10年目を迎えたところです。ここでは、日本技術士会の男女共同参画推進委員会の活動や同委員会によって作成された資料等を紹介いたします。

なお、日本技術士会のホームページには委員会活動が紹介されており、イベントの開催案内・報告やキャリアモデルの記事が掲載され、技術士会会員外の方も閲覧することができます¹⁾。

2. 技術士の現状

「技術士」の資格取得のための受験者数は、年々減少傾向にあります。その中で、学生や院生などの若手と女性の受験者は増加しています。技術士全体の数からみると2021年3月末現在、登録者実数95,072名のうち女性は2,008名であり、2.1%にすぎません。2004年3月末に411名(0.75%)、2017年3月末に1,498名(1.7%)と、僅かな割合ではありますが、人数は3倍、5倍増となっています。最も女性の割合の多い環境部門では10%強、建設部門や応用理学部門では2%強で、絶対数の男女格差は歴然としています。ただ、100名の集まりで2、3名が女性という状況はよく経験するところですが、最近では若い方々の参加が増えているようにも感じます。大学等でも地球環境を扱う分野では、半数近くが女性であることも珍しくありません。技術士一次試験にチャレンジする若手や女性が増えている現況から、これから期待が寄せられているところです。

日本技術士会の常設委員会のひとつ「男女共同参画推進委員会」は、特に女性技術士の増加や技術士の知名度向上を図る活動、男女共同参画の推進に資する活動を積極的に進めています。以下、男女共同参画推進委員会の活動や委員会作成の資料についてご紹介します。

3. 男女共同参画推進委員会の活動

男女共同参画委員会では、委員会の役割として以下の項目を挙げています。

- (1)女性技術士の増加を図るための積極的な広報活動を展開すること
 - (2)女性技術者のキャリアパスにおける技術士資格の優位性を明確化し、技術士の知名度向上を図ると共に企業における男女共同参画推進への協力をすること
 - (3)科学技術による豊かな社会の形成、及び男女共同参画社会形成推進に向けた支援活動の展開をすること
- これらの役割を果たしていくために、「皆さまへのお願い」も掲げられています。

- ・男女共同参画は男女が、社会の対等な構成員として、社会に生きるための国の政策です。
- ・ご自身をふくめ、企業、家族での意識形成が必要です。
- ・技術系キャリアを目指す女性の環境整備が必要です。
- ・キャリアパスとして企業内の女性技術者へ技術士取得支援をお願いします。
- ・女性の技術者はまだまだ少数です。社外でのネットワークも必要です。
- ・私たちがお手伝いをします。

そして、具体的な委員会の活動内容としては、次の4項目が挙げられています。

- (1)教育機関(大学、高専等)との連携の下での女性技術士及び女性会員の増加に向けた活動
 - ・理系(技術者を目指す)女子学生への広報及び支援
 - ・女子中学生の理系進路選択に向けた広報及び支援
- (2)女性技術者に向けた技術士取得推進活動
 - ・企業内女性技術者へのキャリアモデルとしての技術士取得を推進する広報活動
 - ・女性技術者のネットワーク構築、及びそのネットワークを通じた活動への協力
- (3)男女共同参画学協会連絡会等、関係団体との連携・協力
- (4)その他男女共同参画推進に関しての必要な事項

実際には、女子学生・女性技術者支援小委員会・D&I(Diversity & Inclusion)小委員会・広報特別チームに分かれて活動が進められています。年4回企画されている、技術者・技術士を目指す女子学生・女性社会人向け懇話会「技術サロン」は、この6月で第50回目の開催となりますが、リモート開催となってからは地方からの参加も増えているそうです。開催報告はホームページの他、小冊子『技術サロン報告書』として配布もされています(写真-1)。また、冊子資料『技術士キャリアモデル集-あなたも技術のプロフェッショナルになりませんか?』(写真-1)の記事もホー

ムページで閲覧できますが、ロールモデルは随時追加更新されており、現在では男女合わせて30名程の記事が掲載されています。

2016年3月には、技術士CPD教材として『男女共同参画の実践－技術者・技術士の活躍に向けて－』が発行されました。「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」（2015年8月）の成立、「第4次男女共同参画基本計画」（2015年12月）の閣議決定等の動きの中で、「技術士のみならず男女共同参画社会に向き合っていたきたい」²⁾との想いが込められている一冊です。



写真-1 男女共同参画推進委員会作成の冊子資料

また、毎年開催されている技術士全国大会では、分科会の一つとして男女共同参画推進委員会の企画イベントがあります。開催地域の実務者等が参加され、様々な声が挙がってきますが、地域における課題解決へ一歩踏み出すには情報の共有や人的繋がりを広げることが有効であると考えられ、毎回交流が深まるプログラムが工夫されています。身近な課題や相談事を出し合う時間もあり、資格試験の際の託児相談にも対応があることを知り、ぜひ受験に挑戦したいという女性技術者や、子育てが落ち着いたら学位にも挑戦したいと目標を話してくれる方々と出会います。主催側が元気をいただくことも多々あり、参加する楽しみの一つとなっています。本年の分科会テーマは「ジェンダー平等：すべての人が輝くジェンダー平等の社会へ～途切れない支

援と働きかけを共に～」です。専門分野を問わず集い、他の委員会等の協力も得ながら進められることから、また新しい出会いが次へ繋がることと思います。

4. おわりに

広く学協会が関わる組織ですが、2020年に一般社団法人となった男女共同参画学協会連絡会は、2002年に理工学系の12学協会が参加してスタートしました。現在は正式加盟54、オブザーバー加盟56の学協会が活動に参加し連携協力しています。日本技術士会は、第19期（2020年11月1日～2021年10月31日）の幹事団体として運営をサポートしています。大規模アンケート（科学技術系専門職の男女共同参画実態調査）を実施するワーキンググループのコア組織であり、年1回のシンポジウムの企画・運営も進められています。組織によって、長く取り組んでいるところもあればこれから取り組みを始めるという様々な状況の中で、科学技術関連の分野において個性と能力を発揮できる環境を作り、ネットワークを広げていく活動が続けられています。

「キャリアデザイン」を、自分なりの優先順位を持って描いていくためには、判断材料となる情報にたくさん触れることが重要だと思います。先輩や仲間達の事例もインターネットの利用等で情報として得ることができるようになってきました。あれこれ触れてみて、自分を振り返る時間を作ってみてはいかがでしょうか。今回の日本技術士会の活動紹介が少しでも役立てば幸いです。もちろん、ダイバーシティ推進特別委員会の活動にも参考になればと思います。共通のキーワードは情報共有やネットワーク作りであり、これからも様々な機会を大切にしたいと思います。

引用文献

- 1) 公益社団法人日本技術士会：男女共同参画推進委員会のホームページhttps://www.engineer.or.jp/c_cmt/danjyo/, (2021年5月閲覧)。
- 2) 公益社団法人日本技術士会(2016)：男女共同参画の実践－技術者・技術士の活躍に向けて－, 156p.